

年 組 番
(名前)

<新聞記事から考えよう> 190119



佐賀 最悪レベル 発生件数、負傷者数



県内の人口 10万人当たりの人身事故発生件数と負傷者数の推移

2018年の佐賀県内の交通事故死者数は前年より6人少ない30人で、統計を始めた1948年以降で4番目少ない数となった。人口10万人当たりの死者数は3.6人(ワースト)から20位で佐賀県は「関係機関が一丸となって取り組む結果」と評価する。一方で人口10万人当たりの人身交通事故発生件数、負傷者数はワーストを争う状況が続いており、事故防止の取り組みを継続していく。

交通事故死者数の改善は進んでいるが、人口10万人当たり94.8件と依然として高く、暫定2位。2011年から全国ワーストが続く、人口10万人当たりの負傷者数は915.3人でワースト脱却の可能性もある。

佐賀県は、世帯当たりの車の保有台数が全国でも多く、日帯の移動手段として使う県民は多い。さらに、県が交通安全指導員や県外出者に行った意識調査で、全国の運送や車間距離の短さ、携帯電話を使うながらの運転など、県内を走る車の運転マナーの悪さが指摘されており、こうした事情が事故件数の多さにつながっているとの見方が強い。

佐賀県は、人口10万人当たりの人身事故発生件数が千件

交通事故死 減ったけど...

佐賀 最悪レベル 発生件数、負傷者数

◎記事から読み取ろう

○2018年の佐賀県内の交通事故についてまとめよう。

・交通事故死者数 _____ 人

これは前年より _____ 少ない

1948年以降

_____ 番目に少ない

人口10万人当たりの死者数 _____ 人

これはワーストから _____ 位

・人口10万人当たりの人身事故

発生件数 _____ 件

10万人当たり 県警、啓発強化へ

県警交通企画課は、ワーストレベルという危険な水域に少ざせることが重要」とした上で、「以上に交通マナーの順守とマナーの向上を呼び掛けていく」と取り組み強化を示唆した。

(西浦雅也)

を越え、12年から3年連続で全国ワーストを記録したことなどを背景に、15年から交通事故ワーストからの脱却!緊急プロジェクトを始めた。講話主体だった交通安全教育を、参加体験型へ移行。歩行者や自転車運転などのシミュレーターの導入や、スタントマンが事故を再現して危険性を学ぶ交通安全教室などを啓発効果を高めた。

16年は、県や警察、関係機関でつくる「県交通安全対策会議」の5カ年計画で、20年までに交通事故の発生件数を年間5000件以下に引き下げる数値目標を初めて設定。18年の人身事故発生件数は5725件(前年比0.40%)減で、2年前倒し目標を達成するなど、一連の取り組みの効果が少しずつ出てきた格好だ。

(佐賀新聞 2019.1.19 付)

早めのウィンカー点灯を



ウィンカーの方向を意識づけられるため左右に傾けた「気球」マーク佐賀市の佐賀北警察署前交差点

交差点に気球マーク登場

佐賀市の佐賀北警察署前交差点に、県内初のウィンカーマークが設置された。早めの合図を促すもので、路面に描かれた気球の「傾き」がウィンカーの方向を示している。

県警が県外ドライバーに対して実施した交通マナーのアンケートで、県内ドライバーはウィンカーで、設置場所は佐賀北警察署前交差点を東西に通る国道34号と南北に走る車の上下線交差点の30分前(ウィンカー)の文字、方向を意識づけられるため左右に傾けた「気球」デザインの道路標識を設置した。

同交差点は日本損害保険協会が発表する交通事故多発交差点で、2015年から3年連続で県内ワースト。

・人口10万人当たりの人身事故負傷者数 _____ 人

これが12年から _____ 年間全国ワーストを記録した。

○事故件数が多い理由の一つとして運転マナーの悪さがあげられています。どのような行動が指摘されていますか。

(佐賀新聞 2019.1.20 付)

◎広げよう・深めよう

○左下の記事は、交通マナー向上のために路上に文字と気球デザインの道路標識を設置したという事例です。このように交通ルール順守とマナー向上のためのアイデアを出し合おう。

◎自分の考えをまとめよう

*友だちと意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○交通事故を減らすために、自分たちにできることはどんなことだろう。